平成 30 年度　札幌市研究開発事業「道徳教育」に係る実践研究
札幌市立伏見小学校

第４学年　道徳科指導展開例

１　主題名　　支えられている自分

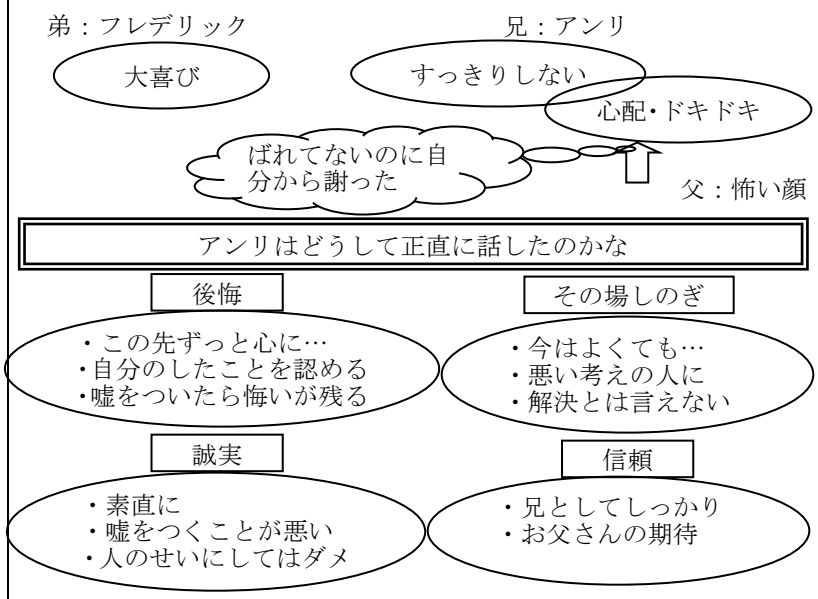
２　内容項目　　Ａ－正直、誠実

３　教材名　　なしの実

４　ねらい（視点）

高学年に向け、自分の生活を振り返り自らを正したり律したりすることが求められる。そこで本主題は、マナーを守ることや自分の過ちを認めることの大切さを軸にする。展開では、自分が周囲の人々の支えや期待の中で生活していることに気付けるようにする。そうすることで正直のよさには、「自分がすっきりする」ことの他に「他者からの期待に応える」こともあるのではないかと、子どもが多面的・多角的に考えることができるようになる。また、素直に謝ったり自らの行動を律したりする誠実さについても気付かせたい。

５　本時の展開

	発問と児童生徒の活動	評価・留意点
導入	○正直に話せなかった経験について、自分の生活を振り返る ・ドッジボールで本当は当たってたのに… ・家族に内緒でゲームをして… ・宿題を終えていないのに、終わったことにして…	・自分の失敗を正直に話せなかった経験を聞くことで、本時で考える道徳的価値について、自分と重ね合わせて考えられるようにする。
展開	○教材を読み、内容を確認する（教師の範読）  	・主人公に焦点を当てながら教材を整理し、父親にはばれていなかったことを確認する。そうすることで、「ばれていないのになぜ自分から謝ったのか」という問題意識を生む。 ・正直のよさについて、多面的・多角的に考えられるような問い返しをする。「黙っていればよかったのでは。」と問い返すことで、嘘はその場しのぎのものになってしまうことや、「フレデリックの方が悪いのでは。」と問い返すことで、信頼を得る大切さについても考えられるようにする。
終末	**嘘は結局自分が損をすることになるんだね** 後悔するだけでなく、信頼も失ってしまうからなんだね だから間違いを素直に認め、改めることが大切なんだね	

６　評価

・身近な人々に支えられながら生活している自分に気付き、きまりを守ったり誠実な態度で生活したりする大切さについて考えている。

・正直でいることのよさを多面的・多角的に考え、自分の生活と重ねて考えている。